

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所理念を職員の目の届くところ にあげ朝礼等で職員1人1人共有している。	1・2階共に朝礼時、法人の理念を唱和し、ホームの理念については合同会議等で原点に戻って管理者が話している。事務所内や会議室等に掲示してある理念は職員の手書きで、大変読みやすく温かみが伝わってくる。利用契約時の家族等への説明の機会にホームの考えを伝えるため関連付けて話している。また、理念にそぐわない行動が職員に見られた場合には、立場や背景を考慮し管理者から助言をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣外出時地域の方から声をかけていただく事が多くなり、交流する機会も増えました。回覧板を届けてくださったり、地区行事にもお誘いいただけるようになった。毎年近隣の中学校の福祉体験やボランティアを受け入れている。	自治会費を納め、昨年より回覧板や地区行事のお知らせを区長より届けていただけるようになり、より詳しく地域の情報が分かるようになった。利用者も地域マラソン大会の応援、演芸の会、お祭り、駅前開催の土曜日等に出掛けている。また、ホーム前の道路は主要交通路の抜け道になっているため、地域住民の方々と気軽に会話する機会があり、双方の理解に繋がっている。毎年、中学生の福祉体験を受け入れており、食事の盛り付けや食器拭きの手伝い、公園の散歩等、利用者と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣居宅事業所より家族に対して認知症介護について相談依頼を受けお話をさせていただく機会もあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催をしており、サービス状況などをご報告させていただくとともに、地域活動等お聞きするようになっている。	第2火曜日午前中を基本に定期的開催し、家族代表、区長、市高齢者介護課職員、民生児童委員等の参加を得ている。会議に使われるレジメは文字を大きくし、スペースを空け読みやすい字体で提供されている。参考資料の内容も理解しやすく、活発な意見交換に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には出席依頼、事業所の取り組みを報告させていただく。また課題等はその都度ご相談させていただいている。	行政のサービスを活用したり、新しい情報を得るため、ホームとして管理者はしっかりと関係を構築している。開設時からの民家改修型旧ホームが隣地にあったが現在は更地になっており、活用方法等を関係機関と相談中である。介護認定の更新調査をホーム内で行う利用者もあり、可能な家族等には同席をお願い職員立会いで調査を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地区内での研修会を通じ身体拘束に理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上・実践につなげている。	1階玄関は施錠をしていないが、1階、2階、各ユニットの扉はホームの環境を考慮し安全面から鍵をかけている。現在、必要と認められる利用者はいないが、家族の希望により転倒防止等の理由でセンサーマット使用の利用者が若干名いる。利用者の思いが高まり不穏な動きや言葉が感じられた場合には、気分転換のため職員とともにホームの周りの散歩や買い物に出掛けている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地区内での研修会を通じ虐待に理解を深め、参加できなかった職員を対象に伝達研修の実施をし意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて参加・受講し、スタッフ会議前に伝達研修を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については事前の説明をし、ご家族に契約内容をご理解・ご確認していただいた中で締結としている。報酬改定時その都度ご家族にむけ説明・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には日々の中で思いをくみとり、職員間での情報共有・ケアへの跳ね返りを実践している。各階に意見箱の設置。ご家族面会時にはご利用状況をお伝えしている。月1回はご利用状況についてお手紙と写真をお送りしている。	1階ユニットの利用者は自身の思いをほぼ全員が表出することができる。2階のほとんどの利用者は表出することが難しいが、顔の表情や仕草、生活歴や家族からの話をすり合わせ、要望等の実現に努めている。家族会はないが、新年会や祭り等の行事の時に家族へ呼びかけ来訪していただき、利用者と共に食事を楽しんでいただいたり話し合いを行い相互理解に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ユニット合同会議・各ユニット会議を設け、職員間の情報共有に努めている。	職員のスキルアップも考慮に入れ、会議では伝達研修などを行い、合同会議、ユニット会議の順で開催し、法人内の部会や会議の報告後、その月と翌月の行事のすり合わせをしている。管理者は職員の業務に対する意見や発想を重視し働き甲斐のある職場づくりに取り組んでいる。法人として目標管理制度を導入しており、管理者との3ヶ月に一度の面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で取り組んでいる、人事評価制度を基とし運営。また各自目標を明確にしながら日々取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT OFF-JTの実践。また受講後は研修報告会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護保険事業所連絡会にも参加したり、市内のGHIにも施設見学をさせていただいた。また安曇野市主催の在宅医療・介護連携に関する多職種連携研修会にも参加している。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員がご利用者と同じ目線の中でコミュニケーションをはかっていく中で、ご本人の言葉に耳を傾け思いをくみ取れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や事前面談を実施。その中でご本人の背景やご家族の状況や思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい環境を整え言葉や表情からご本人・ご家族の想いをくみとりながらサービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りなど生活していく中でお互いに支え合う関係作りにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはお誘いの案内を送らせていただき、参加していただいたり、ご本人が誕生日には許す限りご家族も一緒にお祝いしている。家族の方も気軽に来て頂けるような環境・関係作りにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方も定期的に来所されたり、ご家族のご協力もいただきながら自宅へ戻ったり、行きつけだったお店へ食事・買い物などご利用前からの関係が継続できるように支援している。	来訪者の記録は日誌に記入され、家族等の了解の下、面会が行われており、ホーム利用前のデイサービス仲間や友人の訪問を受ける利用者もあり、楽しいひと時を過ごしている。利用者の希望で誕生日のお祝いに馴染みの場所にコーヒーを飲みに出かけたり、家族との会食の待ち合わせ場所にお連れをしたりと、職員はフットワーク良く利用者の思いの実現に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1ユニット9名だけの関係性ではなくお互い気軽に行き来ができる配慮させていただき2ユニット18名の関係がより深くなるよう支援している。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々にも期間を置きながら、GHでの生活を冊子・写真アルバムとしお渡ししながら、ご家族の想いに寄り添えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の生活史を知りまた見返しをしながら、日々の生活の中で思いや希望の把握に努めている。月に1度のケア会議でもご本人の意向をもとに職員間でも意見交換を実施し実践につなげている。	複数の選択肢から決定に至ることもあるが、利用者が発する言葉の意味の背景も考慮し本質を考えケアに当たるよう管理者はケア会議や申し送りで職員に指導している。言葉や態度でうまく思いを表出することができない利用者については、よく話すつづきや身振りを生活記録や業務日誌に記録し、介護計画作成時の大切な情報とし職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者・ご家族からの情報収集はもちろんのこと、利用してきたサービス機関にも訪問をしご利用状況などをお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし申し送りの記録と口頭にて実施点でなく線でのケアにつとめている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で本人・ご家族のご意向と共にユニット職員全員で計画作成を行っている。	居室担当職員が利用者や家族等からの意向を聞きながらケアプランを作成している。1回のケア会議で3人の介護計画の見直しをしており、話し合いながら計画作成担当者が確認をしている。3ヶ月に一度の見直しを行い、状態に変化が見られた場合には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の様子を記録をし記録方法についても統一を図る。申し送りの記録と口頭にて実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に応じて医療機関への通院や買い物・散歩などの外出にはご家族の代わりに行ったり、散髪・予防接種をおこなったり柔軟な対応をしている。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員と共に外食や買い物に出かけたり、地区の会食会にも参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族のご意向を大切に主治医との連携を図っている。急変時には協力医療機関に相談できるような体制は整えている。	定期受診については基本的に家族等の付き添いをお願いしているが、協力医の往診を受ける利用者が1階・2階ユニット合計でほぼ三分の一ほどいる。緊急時の情報については1階ユニットは主任、2階ユニットは管理者が把握し家族等との連絡をとっている。週1回の訪問看護があり、夜間や緊急時のオンコール体制もとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回入っており、急変時等相談支援していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には生活状況の伝達。主治医への連絡をおこなう。入院時も面会に行き情報の共有をはかっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては入所時の説明と、終末期に関してはご利用者・ご家族の意向を尊重しながら、関係機関と連携し方向性をだしている。	看取りの法人研修が行われているが特別養護老人ホームなどの入所施設職員が対象となるため、研修委員会メンバーの指導により合同会議の中で看取り研修をしている。また法人の「最期の時を迎えられるよう最大限の対応を基本とする」という法人内グループホームとしての共通の対応指針があり、契約時に家族等に説明を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認・周知。緊急連絡先の確認。救急救命の研修の参加し、伝達研修を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回の実施。消防署にも協力いただきながら実施。夜間想定とし連絡網の確認。	法人の中に防災対策委員会があり、年2回の訓練の内1回は2階の外階段と内階段を委員会指導で実際に降り避難している。ホームの防災計画は消防署に届け出しており、食料品の備蓄は5日間、介護用品の備蓄も約1ヶ月ほど準備し方が一に備えている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人・事業所理念に立ち返り言葉使いなど注意しその方にあった話し方・接し方に配慮している。	利用者への呼びかけは基本的に名前に「さん」を付けて呼んでいるが、家族等との話し合いや生活歴を加味して利用者に合わせてお呼びすることもある。居室入室時にはノックや声掛けをし、職員は言葉遣いやプライバシーに配慮した対応に努めている。夜間、話をするために居室を出てこられる利用者もあり、夜勤職員はお茶を飲みながら利用者のしたいことや思いを聞き、職員間で共有しながらその実現に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に生活させて頂く中で希望・想いを聞き取れる場面作りをしている。それを記録として残し反映させている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	線でのケアができるよう、口頭での申し送りと、体調・表情などからご本人のご希望を的確にとらえケアしていくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装の決定や、定期的に美容師に来てもらいカットはもちろん毛染めも対応していただいている。朝にはご自身で鏡をみて身だしなみを整え確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬のものを取り入れ、調理から片付けを一緒に行いながら教えていただいたり、感謝の気持ちもお伝えしている。一緒に食事をしながら、気持ちを共有している。	法人本部からメニュー表と指示書が届いているが、家族等からのいただき物があった場合にはメニュー変更をしたり、一品増やしたりと臨機応変に対応している。食材も豊富な一汁三菜の料理が職員交代制で作られ、利用者と職員と一緒に食事をとっている。会話も弾み、笑いと共に楽しい食事の光景であった。食事形態も利用者に合わせて、極キザミやキザミで利用者に合わせて内容になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった食事形態での提供、毎食の食事量や水分量を把握している。水分についてはお茶だけではなく工夫しながら提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の声掛けをし、職員も支援させていただいている。ご家族の希望で訪問歯科を利用させている方もいる。		

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、排泄のパターンを確認しながら、早めに声掛けや支援をさせていただいている。	トイレでの排泄を基本と考え支援に努め、約4割近くの利用者が布パンツを使用している。職員は排泄パターンを把握して支援に当り、声掛けや誘導も自然に行われている。トイレの場所をわかりやすくするため床の色を変え利用時の安心感に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や食物繊維の多いものの提供や、水分をこまめに提供したり、運動も毎日の中で取り入れ排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望にあわせ、入浴に対し拒否される方にも、言葉かけや対応を工夫しながら柔軟に対応している。	1日3名、週2回の入浴を基本としているが、3回入る利用者もいる。2階の浴槽は上下に稼働する特殊浴槽のため1階の利用者が使用することもある。同性介助を希望する利用者にはそれに応じている。ゆず湯や菖蒲湯などの趣向を凝らし、入浴を楽しめるような機会作りもしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握しながら、日中の活動夜の休養がしっかりとれるよう個々の生活リズムを尊重しケアしている。夜間も定時巡視をし迅速に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の観点も含め服薬前には名前と顔の確認飲み込みまで見守らせていただいている。また内服内容の変更時は日誌・口頭にて共有し経過についても記録しご家族・主治医に報告させていただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の掘り起しと共にご本人の得意なことや役割を提供し、喜びを感じられるよう支援につとめている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはベランダで外気浴をしたり、ご飯を食べたり。近隣の公園・お寺・デパートへ出かける機会を設けている。ご家族協力のもと外食・ご自宅へ帰ったり誕生日には一緒にお祝いしている。	無理なく、自然に、散歩を日常的に取り入れている。洗濯干しのために1階利用者が2階へ歩きで上り、畑の水やりのために2階利用者が1階へ歩きで下るなど、機能訓練も兼ね気分転換している。ホーム近くに民生児童委員の家があり庭を拝見したり、近くの大型ショッピングセンターへ買い物に出かけたりしている。年間外出計画もあり近くの近代美術館のバラの花を見に出かけたりしている。	

グループホームとよしな敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にとって好きなものを買ったり、ご自身で精算したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に暑中見舞いを出し、ご家族からもお手紙をいただいたり、電話も希望に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースにはカレンダーや大きな木を貼り付け、季節に応じてご利用者と一緒に張り替え季節感を出している。またみなさんで共同制作したものについても飾り付けをしている。テーブルに花を飾ることにより見て楽しむこと、管理することも日課としている。	玄関から各ユニットに通じるドアには程よい大きさの透明ガラスがついているため、中の様子を垣間見ることができ安心できる造りとなっている。また、キッチンコーナーのレンジ前はガラス張りの壁で見通しが良く明るい間取りで、動線に配慮した共用スペースとなっている。利用者が多くの時間を過ごす食堂からは居室入口が見渡せ、廊下も幅が広くゆとりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室なども利用していただきながら、ご利用者同士で話をしたり、食事をしたり同じ時間を共有している。全室個室のため居室にて本や新聞を読んだりできるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご本人の馴染みの湯のみや茶碗・家具などもご家族とも相談しながら環境を整えている。居室内にご家族との写真や行事で作った作品なども飾らせていただいている。	居室には備え付けのクローゼットと洗面台、ベット、エアコン、床暖房が完備されている。腰高の窓は大きく、居室内は明るく、自宅から使い慣れたソファや整理タンス等を持ち込んでいる利用者もおり、落ち着いた生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前とトイレの床を変えわかる工夫をしている。また整理整頓を心がけながら移動のしやすい環境設定をしている。		